

## 令和3年度 自己点検・評価の結果概要

### 1 学校自己点検・評価の目的

学校自己点検・評価とは、看護学校の教育活動や運営状況について、その達成度や妥当性などを自ら評価し組織的・継続的に改善を図るしくみである。目的は、教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追究に職員が丸となって取り組み、かつ社会への説明責任を果たすことにある。平成23年度からアンケート形式で自己点検・評価を開始し、平成27年度からHP上で公表している。

### 2 自己点検評価等により課題とされた事項への主な取り組み

#### 課題1：看護教員の継続した育成と資質の向上

新採用者の退職が続いたことから、新人教育体制の強化のためメンター制度を導入したが、制度を浸透することができなかった。次年度も看護教員教育要綱に基づき、新採用者、転入者の教育を計画し、実施後に速やかに評価、修正をしたい。

教務主任研修2名が参加した。WEB研修にいくつか参加することができた。

以上の点から、特に次年度も新人教育体制を強化する。

#### 課題2：新カリキュラム改正の準備

カリキュラム改正に向けて教育理念・教育目的・教育目標・アドミッションポリシーを見直し、ディプロマポリシーとアドミッションポリシーを決定した。第一看護学科のカリキュラム改正の準備は予定どおり行え、令和4年度入学生が新カリキュラムでの教育となる。第二看護学科は令和5年度入学生から新カリキュラムとなるため、来年度はカリキュラムの内容を検討し変更申請を行う。

#### 課題3：遠隔授業をスムーズに実施する

新型コロナウイルス感染症拡大予防対策としての対策の一つとして、Zoomによる遠隔授業の数を増やしている。通信環境の問題があったが、学生が主に使用する教室の通信環境を整えることができた。

新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者など、登校停止が続く学生も状況により在宅で授業を受けられるようになった。Zoomは県庁のライセンスを利用しているが、予約がとりにくく、複数のクラスで利用できないこと、遠隔授業のサポートができる教員が少ないのが課題である。

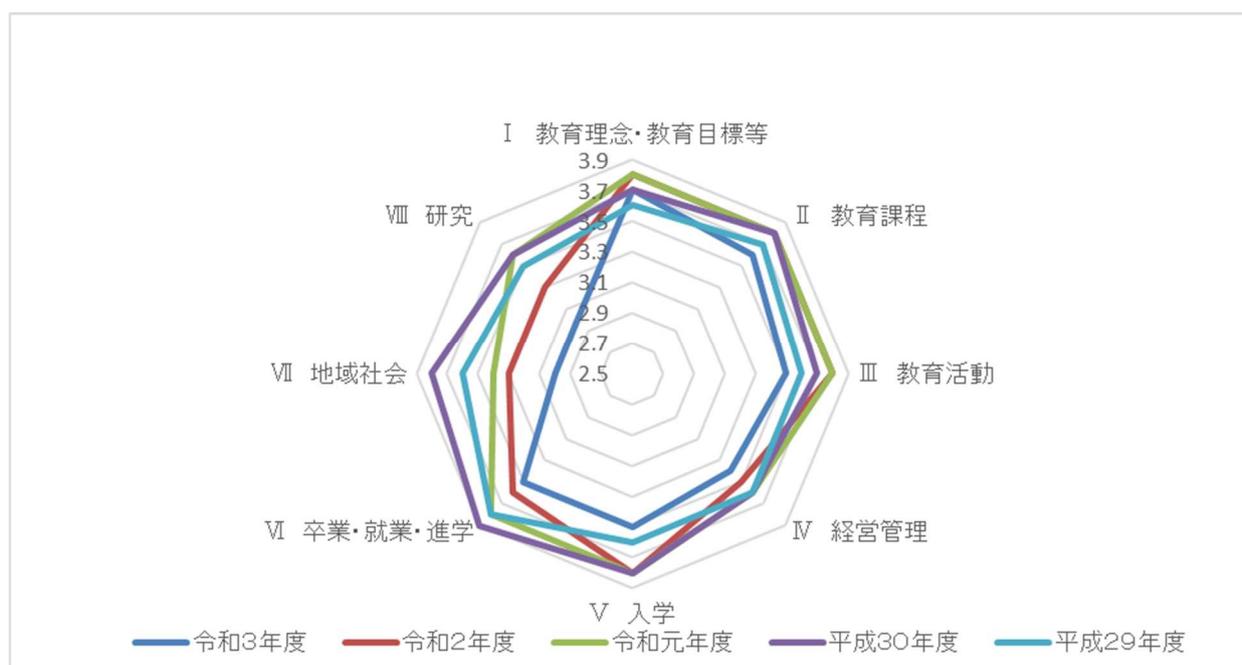
### 3 令和3年度自己点検・評価の実施方法

「学校運営評価尺度」を用い、長期研修、休職中を除く全職員25名を対象に各自が自己評価をしたものを集計した。評価尺度は、良い(4点) やや良い(3点) やや不十分(2点) 不十分(1点) の4段階評定としている。「学校運営評価尺度」は、本校の自己点検評価規定第3条(自己点検評価項目)に基づき、8の大項目に分類され、さらに61の小項目に細分化されているもので、質問項目、評価の考え方、基準となる既存資料を盛り込み、できるだけ皆が同じ視点で評定できるように意図している。

### 4 評価集計結果(直近5年間)

項目	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
I 教育理念・教育目標等	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6
II 教育課程	3.6	3.8	3.8	3.8	3.7
III 教育活動	3.5	3.8	3.8	3.7	3.6
IV 経営管理	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6
V 入学	3.5	3.8	3.8	3.8	3.6
VI 卒業・就業・進学	3.5	3.6	3.8	3.9	3.8
VII 地域社会	3.0	3.3	3.4	3.8	3.6
VIII 研究	3.0	3.3	3.6	3.6	3.5
平均	3.4	3.6	3.7	3.7	3.6

【評価尺度】 4：良い、3：やや良い、2：やや不十分、1：不十分



## 5 総括

集計結果については、全体平均は3.4であり、昨年度より0.2低下し、直近5年では最低である。大項目では、III 教育活動、V 入学、VII 地域社会、VIII 研究の4項目が、前年に比べ、0.3ポイント低下している。前年度は3.0未満の項目はなかったが、今年度は、3.0未満の項目が5つあり、「27 将来構想、中期・短期計画とその目標に基づき要員計画・採用計画を策定しているか」「28 優秀な人材を採用するための募集活動、研修計画を策定しているか」「34 教育目標達成に必要な施設、設備および新しい機材が整っており、活用されているか」「59 教員が計画的に臨床看護研修に参加しているか」「60 教員が計画的に研究調査活動を行っているか」が2.7～2.9であった。これらについて自由記載の意見から考察する。

まず施設設備については以前からの課題である老朽化と、感染防止対策として遠隔授業を予定したが、通信環境の整備に時間がかかったこと、予算の都合で希望する教材が購入できないことなどが要因である。設備の故障で実習室が使用できなくなり時間割の変更があったこともあり、施設及び設備について長期的に修繕する計画立案が必要であると考えます。

次に教職員の確保と育成については、年度当初、教員が欠員でその後補充ができたものの、療休や休職がいたこと、カリキュラム改正の準備で例年より業務量が増えたこと、新型コロナウイルス感染症の影響で講義や実習の変更がありその都度対応したことなどで教職員の負担が大きくなったと考える。研修については、新型コロナウイルスで外部の研修が少なく参加できなかったこと、研究についても業務量が多く、自己研鑽をする余裕がなかった。また新採用教員については、メンター制度を活用できなかった。またキャリアラダー（教員に求められる能力の到達目標を段階別に示したもの）に沿った教育をする時間が持てなかった。

## 6 今後に向けて

令和3年度の取り組み及び自己点検評価の結果を受け、令和4年度は次の取り組みを行う。

- ① 看護教員、特に新人教員や異動してきた教員の継続した育成と資質向上
- ② 第二看護学科の新カリキュラム改正の準備
- ③ 長期的な施設の修繕計画と実施

令和3年度の課題を受け、本校の特徴を活かしながら新しい教育方法を取り入れ、学生の成長につなげていきたい。併せて、学校関係者評価において頂いた多くの貴重なご意見等を踏まえ、学校運営全般の質向上を図っていききたい。